



MIRAI
REHABILITATION
HOSPITAL

みらいを創る・みらいに繋ぐ広報誌

MIRA★REHA

No.3



特集

リハ部 大解剖

みらいの人

リハビリテーション部 部長

看護部「呼吸器系研修」／新入職医師紹介

回復期リハ病棟実績データ

リレー職員紹介／リハ★飯／アクセス



みらいリハビリテーション病院

MIRAI REHABILITATION HOSPITAL

年末年始休診日
12/31～1/3

平日月曜日から金曜日と土曜日も診療しています。9:00～12:30/14:00～17:30

「ここにある、リハビリの力」 リハ部大解剖 「先端のリハ機器 BMI 紹介」



先端リハ機器用意 多彩な44名で支援

開放的で 温かな空間を演出

リハビリテーションルームは、2階と3階が吹き抜けで、電車通り沿いはガラス張りになっています。床は優しくきめ細やかな木目のフローリングです。この開放的で温かな空間で、外を眺めながらリハビリをすることが、患者様のモチベーションアップに貢献しています。

私たちリハビリテーション部は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士をあわせて44名（2025年10月1日時点）のスタッフで構成されています。経験年数1年目の新人から30年以上のベテランまで、多彩な職員が力を合わせ、患者様一人ひとりの身体機能や生活の再建を支援しています。

今年度のスローガンは「一致団結」です。開院にあたり多くの新しい仲間を迎え入れた中で、全員が同じ方向を向き、心をひとつに取り組むことを大切にしてきました。

当院は回復期リハビリテーション病棟を中心に、早期の家庭復帰・社会復帰を目指した医療を展開しており、リハビリテーション部では、先端的なリハビリ機器を積極的に活用しながら、専門的知識と技術を磨き、質の高いリハビリの提供に努めています。



↑週に1回、BMIでリハビリをする患者A様（左）と園田OT（右）



右片麻痺の患者A様のリハビリの様子

頭にヘッドセット(写真①)、右手に電動装置(写真②)を装着し、最初の5秒は「リラックス」。次の5秒で、「筋肉が縮むイメージ」をします。この1セットを10回続けます。モニターでマップとグラフを確認します。(写真③) マップの青が多ければ脳が活性化し、グラフがプラスになります。
→つまり、手を動かすイメージができたことになります。



患者A様

字を書くことを目標に

「左被殻出血により右片麻痺となり、現在もリハビリに取り組んでいます。BMIを使った練習では、自分の動きをモニターを通してすぐに確かめることができます。意識なくても肩の力が抜けるような感覚があり、体の動きを意識するきっかけになっています。今では、「自分の右手で字を書く」という目標をもってリハビリを継続しています。



患者A様の
リハ担当
園田OT

患者様の状態に合わせたリハを

患者A様は、リハビリの際に筋肉に力が入りやすい傾向がありました。BMIを用いた練習では、モニターを通して体の動きを確認しながら、リラックスした状態で取り組むことができました。今回の経験を通して、今後も一人ひとりの状態に合わせたリハビリを工夫し、より良い支援ができるよう努めていきたいと思えます。



10年目ベテラン・謎の癒し系
蔵ヶ崎 大地 さん

Q プリセプターとして大切にしていることは？

A 新人が未来の専門職として成長し続けるための「思考の土台」を築くことです。

Q 印象に残っている患者様は？

A 「リハビリとは、一度閉ざされた人生の扉を再び開くこと」だと、諦めない心を教えてくれた患者様です。

Q 謎に包まれたプライベートを教えてください。

A 無垢材にほれ込んでいます。撫でたら人間も丸くなると信じて、自分と無垢材の進化を楽しみにしています。



「超コミュカ」新人
宮上 愛花 さん

Q 当院を選んだ決め手は。

A 評価実習でお世話になり、先端の医療を学びながら自己研鑽に励む先輩に憧れました。

Q 思い描いた通りの職場、仕事ですか？

A はい！

Q 仕事は充実していますか？

A 学生時代の勉強が、患者様の生活やリハビリで「こういうことだったのか!」とつながる瞬間が本当に面白いです。特に臨床は楽しく、充実しています。

ほかのリハビリテーション機器

レール走行式免荷リフト



免荷機能を活用、早い段階から歩く訓練ができるリハビリ機器です。スタッフの支えがなくても取り組み、自分の力で歩く自信につながります。

ウェルウォークWW-2000



運動学習理論に基づき歩行向上を促すリハビリ支援ロボットです。適切なアシストで初期から自然な歩き方で練習を行えます。

みんなとっても仲良し。

お昼は8Fのレストランで楽しく食事をして、パワーをチャージします。



呼吸器系に強くなろう！ シリーズで研修を実施

看護部

看護部では今年度、「呼吸器系に強くなろう!」をテーマに
医局やリハビリテーション部とも連携して
シリーズで研修を実施しています。

第1弾は、6月に人工呼吸器の取り扱い・アラーム対応について、業者様の協力のもと、基本的なことを学び、確認しあいました。

第2弾は、当院の松口徹也医師による「呼吸不全の病態とフィジカルアセスメント」講義です。9月から3回にわたり講義が行われています。第1回目は「呼吸不全の病態と症状」、11月の第2回目は「よくわかる血液ガス分析」の演題で学びを深めました。当日参加できなかったスタッフは録画視聴を実施、看護部全員が講義を受けています。最後の講義は「呼吸不全の早期発見、悪化防止、観察ポイント(予定)」です。(写真上)

第3弾は、「肺炎予防～肺理学療法の演習」と題して、リハビリテーション部の呼吸療法認定士山下俊和PTの実技演習を行いました。呼吸ケアで使える技術編で、姿勢保持やリラクゼーション法、呼吸訓練、スクイーミングによる排痰技術などを学びました。実践的な技術を学べるため質問も活発に行われ、有意義な研修となりました。(写真下)



学会発表「第34回鹿児島県作業療法学会」

10月12日(日)伊佐市文化会館

リハビリテーション部

園田 征志

脳卒中右片麻痺患者の運転再開に向けた
作業療法と自動車教習所との連携支援の一例

リハビリテーション部

白谷 汐音

Brain Machine Interfaceが上肢機能、
脳波に与える影響
-3例での報告 -

リハビリテーション部

立原 美紗妃

Rey複雑図形模写および立方体描画能力の低下を
認めた症例で両課題遂行可能化を示した一例

内科・消化器内科

か もり
家守

まさ ひろ
雅大



【出身大学】
久留米大学医学部卒

【専門資格等】

日本外科学会専門医、日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本臨床肛門病学会認定医、上下部消化管内視鏡スクリーニング認定医
日本ヘリコバクター学会認定医、日本消化管学会専門医・指導医
日本大腸肛門病学会専門医、日本抗加齢医学会専門医
日本消化器がん検診学会総合認定医

主に消化器内科、なかでも消化管内視鏡検査・治療（胃カメラ・大腸カメラ）に従事しています。定期的に胃カメラ・大腸カメラを受けることで、がんを含む病気の早期発見・早期治療を行う事ができ、健康寿命の延伸につながります。特に下部消化管内視鏡（大腸カメラ）は患者様に苦痛が無く楽に検査を受けられるよう、小さな病変も見落とさないよう丁寧に行う事を心掛けています。

大腸ポリープ切除も行っており、日帰り・入院での切除の両方に対応していますので、患者様のご希望に柔軟に対応できるものと考えております。

微力ではありますが、今まで培った知識・技術・経験等を患者様に還元できるよう頑張りたいと思っています。些細なことでも構いませんので胃腸で気になる事があれば、お気軽に当院に相談しに来られてください。

今回ご紹介するのはこの3人



リハビリテーション部
理学療法士
山口 恭人 さん

生まれも育ちも北海道の私が、理学療法士17年目で鹿児島に来ました。私が志しているのは、患者様がその日一番のパフォーマンスを発揮しリハビリ後に目が輝いていることです。冬の北海道は世界が注目する「パウダースノー」と旬の「蟹」が最高ですよ。

次は、外来の癒し系上久木田さんです。



外来
看護師
上久木田 空 さん

自分に余裕がないと患者様に伝わってしまうので、どれだけ忙しくても少し世間話をするなど、笑顔を忘れないようにしています。休日の昼食は必ず自炊をします。レシピを考えるのが楽しみです。おすすめのラーメン屋は、同級生の両親が経営する「笑屋」です。

次は、薬のエキスパート福田さんです。



薬局
薬剤師
福田 満弘 さん

薬とリスクは常に隣り合わせ。どうすればより安全に届けられるかを日々考えています。自然が好きで、休日は花や海、神社などを巡りながら気ままにドライブするのが、私にとって最高のリフレッシュタイムです。

次は、職員の幸せを願う人事の永井さんです。

栄養科

鶏むね肉と白菜のチーズ蒸し

リハ栄養 旬の食材で効果アップ



◇作り方(所要時間：約5～6分)

- 1.鶏肉はそぎ切りにして、塩コショウを軽くふる。
- 2.耐熱容器に白菜を敷き、鶏肉をのせる。
- 3.酒を全体に回しかけ、にんにく(お好みで)を少量のせる。パプリカをちらす。
- 4.上からチーズをまんべんなくのせる。
- 5.ふんわりとラップをして、電子レンジ600Wで4～5分加熱。
- 6.火が通ったら、オリーブオイルをひとまわしかけて完成!

◇材料(1人分)

- ・鶏むね肉(または鶏もも肉):約100g
- ・白菜:2～3枚(ざく切り)
- ・パプリカ(赤・黄):各10g(細切り)
- ・ピザ用チーズ(とろけるタイプ):約30g
- ・酒:小さじ2
- ・塩コショウ:少々
- ・にんにく:少々(お好みで)
- ・オリーブオイルorごま油:小さじ1(風味づけ)

本日の食材 管理栄養士の「ここがポイント!」

鶏肉は、高たんぱく・低脂肪。筋肉の修復・維持に◎
冬が旬の白菜は、ビタミンC、カリウム豊富。たんぱく質の吸収をサポート
パプリカのビタミンCで免疫力アップ、たんぱく質吸収アップ
チーズは、動物性たんぱく質+カルシウム。骨を強化し、満腹感も

VOL 1

リハビリテーション部
部長

川上 剛
KAWAKAMI TSUYOSHI



「先端のリハビリと温かいケアで
地域に必要とされる
リハビリテーション部に」

Q 当院リハビリの特徴は何ですか？

A 先端の医療機器やAI技術を駆使し、質の高いリハビリテーションを提供しています。高度な医療技術と、人を思いやる温かなケアを融合させ、患者様お一人おひとりに寄り添ったサポートを心掛けています。

Q 先端のロボット機器を使ったリハビリへの患者様や医療関係者からの反応はどうですか？

A ウェルウォークWW-2000を使う患者様から「歩き方が良くなった」「良くなる姿を動画で確認できるので励みになる」といった前向きな声を多くいただいております。
また、見学に訪れた医療関係者の方々からも「設備が充実しており、先端的なリハビリが展開されている」「若いスタッフが意欲的に取り組む姿が印象的でとても活気がある」との高い評価をいただいています。

Q プライベートでは何をされていますか？

A マスターズの水泳大会への参加を目標に、日々トレーニングに励んでいます。100mか200m個人メドレーに出場できるように現在練習中です。

Q リハビリテーション部のアピールポイントは？

A リハビリテーション支援ロボット「ウェルウォークWW-2000」や「Brain Machine Interface (BMI)」など先端の医療機器を積極的に導入し、より効果的で安全なリハビリテーションを実施しています。また、当院には熱意あふれる職員が多く在籍しており、最新の知識や技術を積極的に学び、チームとして互いに高め合う風土があります。

Q 地域に貢献し愛される病院になるために、どのようなリハビリテーション部を目指しますか？

A 地域住民の方々向けの健康教室や転倒予防講座、介護予防の取り組みなども今後積極的に実施していく予定です。先端の医療機器を活用したリハビリテーションと、若いセラピストの柔軟な発想力を生かしながら「地域に必要とされるリハビリテーション部」を目指します。

回復期リハ病棟 | 実績DATA

※2025年4月～2025年9月

在宅復帰率

89.2%

※全国平均：78.4%

在院日数

75.3日

※全国平均：66.0日

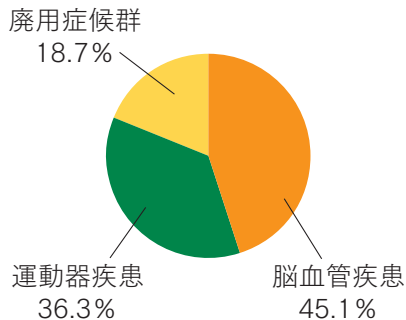
実績指数

46.7

※全国平均：46.6

退院患者割合

※疾患別内訳※



アウトカム実績

退院時FIM※①

95.5

※全国平均：89.4

入院時FIM※①

63.9

※全国平均：64.5

※① FIM(機能的自立度評価表):
日常生活動作の能力を評価したもの
点数が高いほど自立度が高くなる

※② FIM利得:
日常生活動作能力の改善値を示す
(退院時FIM－入院時FIM＝FIM利得)

FIM利得※②

31.6

※全国平均：24.8

アクセス



◆ 鹿兒島中央駅から車10分

◆ 荒田八幡（市電・バス）から徒歩3分

お車で来院される際は、病院東側にある
駐車場をご利用ください。
ただ、駐車場台数に限りがありますので、
ご来院の際は、できるだけ公共交通機関
（市電・バス）をご利用ください。
ご協力をお願いいたします。



〒890-0056 鹿兒島市下荒田2丁目1番25号
TEL: 099-252-2525 FAX: 099-252-2530

平日月曜日から金曜日と土曜日も診療しています。9:00～12:30/14:00～17:30

年末年始休診日
12/31～1/3